

復活節第五主日

2015.5.3

ヨハネ 15・1-8

今日の福音は、わたしたちに馴染み深いぶどうの木のとえです。わたしたちに馴染み深いと言いましたが、今日の福音のぶどうの木のとえが、わたしたちに馴染み深いものとなっているとすれば、それは、わたしたちがカトリック信者となって、ミサの中で何度もこの福音のみことばを聴いてきたからです。このみことばを基にして作られた「キリストはぶどうの木 わたしはその枝の一つ」という聖歌をミサの中で歌ってきたからです。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」という今日の福音のみことばを、わたしたちに呼びかけておられるイエスのみことばとして、素直な心で受け止めることが出来ているとすれば、それは、わたしたちがすでに、このように呼びかけておられるイエスと結ばれた者たちとなっているからです。

先週の日曜日、わたしたちは「わたしはよい羊飼いである」と言われるイエスのみことばを聴きました。わたしたちはこのみことばを、わたしたちを導かれるイエスのみことばとして聴いたはずです。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」という今日のみことばも、「わたしはよい羊飼いである」という先週のみことばも、それを素直に受け止めることが出来ているわたしたちがいるとすれば、そのこと自体が、わたしたちがイエス・キリストを信じる者たちとなって、その信仰によってイエスと結ばれた者たちとなっている証なのです。このような信仰を持たずに、聖書を開いてこのようなことばを読んだとしても、わたしたちは今このミサの中で味わっているような感覚をもってこれらのみことばを受け止めることは出来なかつたにちがいません。聖書の中のイエスのみことばは、それが、わたしたちに向けて語られているみことばとして受け止められるためには、聖書の中のイエスとわたしたちとを結んでいる、相互に通い合う親しさの関係を必要としているのです。聖書の中のイエスがわたしたちにとって特別なお方となっていなければ、聖書の中のイエスのみことばはわたしたちの心に届くことはないのです。「わたしはよい羊飼いである」というイエスのみことばは、イエスによって導かれているという経験なしには、わたしたちにとって意味のないことばになってしまうことでしょう。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」というみことばも、わたしたちはイエスと結ばれているという実感が持てなければ、わたしたちの心に届くことはないことでしょう。聖書の中のイエスのみことばが生き生きと私たちの心に届くためには、わたしたちがすでにその中に生きているイエスへの信仰が前提となっているのです。

わたしたちは洗礼を受けてカトリック信者になる前にも聖書を読んでそこに書かれていることを知っていたかもしれませんが。けれども、聖書の中のイエスのことばを、自分に向けて語られているみことばとして受け止めることを学んだのは、わたしたちが教会と出会ったからです。ミサに参加して、聖書の中のイエスのことばを自分たちに向けられたイエスの呼びかけとして受け止めている人々の雰囲気の中に身を置くことによって、それまでとは違った聖書の受け止め方が出来るようになったからです。そのようにして、わたしたちは聖書の中のイエスと出会ったのです。そのようにして、わたしたちは聖書の中のイエスのことばを自分たちに向けられたみことばとして受け止めるキリスト教の信仰の中に招き入れられたのです。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」と、今日もここに集っているわたしたちに呼びかけておられるイエスのみことばを、自分たちに向けられているイエスのみことばとして受け止めるということが信仰ということなのです。信仰によって生かされるということは、今日もこのミサの中で「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」と呼びかけておられるイエスのみことばを自分に向けられたみことばとして受け入れ、このみことばによってイエスが示してくださった、イエスとわたしたちを結んでいる関係に目覚めてゆくということです。信仰を生きたるとは、イエスが開いてくださった、このようなイエスとの関係の中に生きるということなのです。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」。このイエスのみことばをわたしたちに向けられたみことばとして受け止めることが出来る時、わたしたちは、わたしたちに向けられているイエスの愛のまなざしの中にあるわたしたち自身を見出してゆきます。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」。このみことばに示されているイエスの愛の眼差しの中にあるわたしたちが、イエスにとってのわたしたちなのです。イエスのみことばを受け入れるということ、すなわち、イエスを信じるということは、わたしたちがわたしたち自身をどう思っているかということを超えて、イエスのわたしたちへの絶対的な愛に目が開かれて行くということです。

わたしたちは、洗礼の恵みに与ってイエスを信じる者たちとなることによって、ぶどうの枝がぶどうの木の一部であるように、イエスのいのちによって生かされる者たちとなっているのです。わたしたちのいのちの中にイエスのいのちが流れているのです。イエスを信じ、イエスのみことばによって生かされるとは、今日も新たにこのことに気づき、新たな心でそれを受け入れて行くということです。

そのために、わたしたちはミサを必要としているのです。わたしたちは今日

もミサに集っている、イエスを信じる者たちの信仰共同体である教会において、イエスを信じる信仰に招き入れられたのです。わたしたちは、イエスを信じて生きる人々の信仰共同体である教会の信仰を自分も受け入れることによって、洗礼を受けてカトリック信者となったのです。その信仰の中で「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」と言われるイエスのいのちと結ばれたのです。イエスが保証してくださる、イエスとのこのような関係の中に生きる者たちとされたのです。わたしたちが洗礼を受けてカトリック信者となったということは、そのようなことであつたはずですが、けれども、わたしたちが生きる日常の日々の中で、この信仰を保ち続けることがいかに難しいことであるか痛感しているのも事実です。そのような日々を生きるわたしたちの中に、それでもなお、イエスを信じる信仰が生きていくとするなら、ミサはイエスを信じて生きようとするわたしたちにとって必須なものとなるはずですが、わたしたちはわたしたちが生きる日常の日々の中の、このミサの場において、「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」と言われるイエスのいのちに結ばれている自分を見出すことが出来るからです。

わたしたちはこのミサにおいて、イエスのいのちを受けてイエスと一体となって、父なる神がいとおしめ育ててくださる、神の愛が注がれているぶどうの木となっているのです。わたしたちがカトリック信者となることが出来、その信仰を今なおこうして生きることが出来ているのは、イエスのいのちと結ばれたわたしたちが父なる神にとってかけがえのないぶどうの木となっているからです。

今日の福音のイエスのみことばは、イエスの目に映っているこのようなイエスとわたしたちの関係と、イエスと結ばれたわたしたちに注がれている父なる神の愛を私たちに示しているのです。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」というイエスのみことばを受け入れることが出来、そのイエスのみことばどおりにわたしたちがイエスと結ばれた信仰の中に生きることが出来る時、その愛する御子イエスをこの世にお遣わしになった父なる神の愛の御計画は実現しているのです。神がその愛する御子を遣わすことによって植えられたぶどうの木は豊かな実を結んでいるのです。わたしたちの主イエス・キリストがその十字架の死と復活によってわたしたちに与えてくださった豊かないのちは、わたしたちに受け止められているのです。そのいのちの中に、そのいのちに結ばれて、わたしたちのぶどうの木は豊かな実を結ぶべく成長してゆくのです。「わたしを離れてはあなたがたは何も出来ない」というイエスのみことばは真実です。わたしたちの信仰は、わたしたちの力によるものではないのです。ひたすらにイエスのみことばのもとにとどまることこそが、わたしたちの信仰のいのちの源なのです。イエスが示してくださったこの信仰のいのちを生きる

ことが出来るために、今日もイエスのいのちの体である聖体をこの身にいただき
きたいと思います。そうすることによって、わたしたちは、わたしたちをイエ
スのいのちに結ばれたぶどうの木としてくださった父なる神の愛に応え、父な
る神に栄光を帰すことが出来るのです。このような信仰を生きる者たちとされ
た感謝のうちに、イエスのいのち結ばれた者たちとして、わたしたちの主イエ
スとともにこのミサをともにおささげしたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高